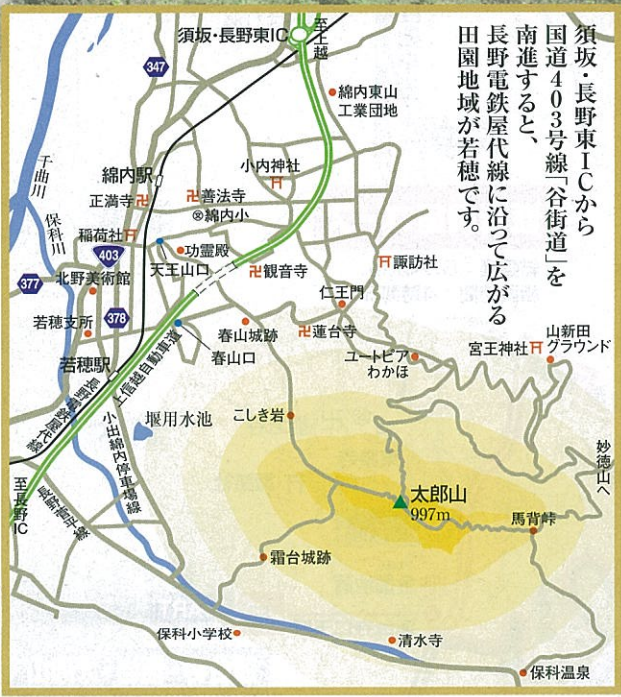
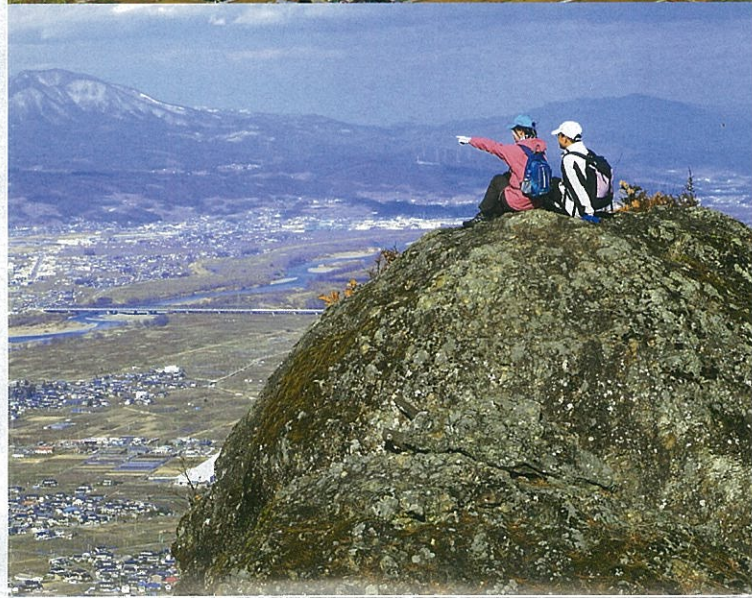


わかほ たろうやま
若穂 太郎山
 トレッキングコース 997m

千曲川、犀川の合流地点が間近に迫る、眺望抜群で
 壮大な大パノラマと、大自然の四季の輝き…。
 目を閉じて、澄み切った透明な空気を大きく深呼吸しよう。



お問い合わせは…
長野市産業振興部観光課
 phone.026-224-8316
<http://www.city.nagano.nagano.jp/sightsee/index.html>
ながの観光コンベンションビューロー
 phone.026-223-6050
<http://www.nagano-cvb.or.jp>
 このコースは、若穂地区のみなさんによる
 太郎山トレッキングコース愛護会によって
 護られています。
太郎山トレッキングコース愛護会
 phone.026-282-2400(若穂支所内)

蓮台寺、甌岩・太郎山パノラマコース 7.34km(5時間30分)
 蓮台寺仁王門(P) — 春山城跡(城ノ峰) — 甌(こしき)岩 — 太郎山頂 — 北尾根口 — 蓮台寺仁王門(P)

甌岩展望コース 6.73km(4時間50分)
 『だるま岩 — 甌(こしき)岩(←Uターン)』
 天王山口(P) — 功霊殿 — 田子峰 — 春山城跡(城ノ峰) — 蓮台寺本堂 — 蓮台寺仁王門 — 蓮の花 — 天王山口(P)

名所・史跡散策、太郎山展望コース
 (白鬚大明神里宮往復除く……9.59km 6時間) (全コース……11.28km 6時間50分)
 山新田グラウンド(P) — 見晴らし公園の藤棚 — 馬場の桜(林道) — 上杉謙信陣屋敷跡(林道) — 妙徳線口(林道) — 馬背峠 — 太郎山頂 — 雁野線口(林道) — 古道 謙信道入口(林道) — 白鬚大明神里宮(←Uターン) — 白鬚大明神日前宮跡(林道) — 木像道祖神(林道) — 宮王神社(白鬚大明神前宮跡) — 山新田グラウンド(P)

太郎山展望コース 1.25km(1時間)
 馬背峠 — 太郎山頂

天王山・春山コース 2.15km(1時間40分)
 天王山口(P) — 功霊殿 — あすまや — 分岐点 — 水論碑 — 春山口 — メダカ池 — 天王山口(P)

太郎山縦走スカイラインコース 4.85km(4時間)
 馬背峠 — 太郎山頂 — 鉄塔尾根分岐 — 甌(こしき)岩 — 春山城跡(城ノ峰) — 田子峰 — 功霊殿 — 天王山口(P) (登山口と下山口が違います)

太郎山南展望・史跡コース 3.2km(3時間30分)
 若穂隣保館(P) — 狐崎 — 弾正岩 — 霜台城跡 — 太郎山頂

太郎山南保科温泉コース 5.25km(2時間)
 太郎山頂 — 馬背峠 — 専達三嶋神社 — 保科温泉

手つかずのありのままの大自然の中、自分のスタイルに合ったコースを選び、名所・旧蹟を巡りながら、トレッキングを楽しんでみよう!

- ① 見晴らし公園の「藤棚」**
 昭和51年(1976)、住民の憩いの場として藤棚を創ろう!との発案がまとまり、同年秋には藤の苗木の植樹祭が開催された。
 翌年の藤棚の建設には、住民全員の労働奉仕でこれを完成させた。以来、毎年夏の草刈りと秋の剪定作業を行ってきたお陰で、新緑5月中旬には60余本の藤が2,000㎡の棚一杯に甘い薫りと共に華麗・優美に咲き誇り、訪れる多くの花見客を癒してくれている。
- ② 馬場の「桜」**
 明治38年(1905)日露戦役勝利等を祝い、住民を挙げた記念事業で多くの青年会員の寄付人夫も投入して山を開墾し、長さ282m、幅18mの壮大な馬場を創設。その両側に総数300余本の桜並木を植え、更にその南丘の頂に八幡宮を創建した。この自分たちの農耕馬による馬場の草藪馬は大正15年頃まで盛んに開かれ住民と共に楽しまれた。100年を経た今、桜並木に爛漫と咲く桜花は見事で多くの花見客を引きつけ賑わっている。
- ③ 功霊殿**
 日清戦争終了後の明治32年、天王山に征清記念碑を建て、さらに日露戦争後の明治39年には日露戦役記念碑を建立して、戦没者を祀る忠魂碑として毎年慰霊祭を行って、昭和5年には恩賜記念碑を建てた。昭和20年の終戦によって忠魂碑は取り外され、また小学校の奉安殿も廃止され綿内村ではこの奉安殿を小内神社境内に移築して祖霊殿とし、戦没者と自治功労者を祀った。昭和27年にこの祖霊殿を天王山に遷宮し、綿内功霊殿と改め、記念碑も再建した。
- ④ 春山城跡**
 太郎山から続く尾根上にある春山城は標高635mの城ノ峰にある。城は城ノ峰にある大城とやや上った小山に小城がある。大城の頂上には主郭となる東西15m、南北26mの不整五角形の平坦部があり、東側9m下には腰曲が二段ある。主郭の南には10×10mの二つの曲輪があり連郭式の山城である。綿内の地は井上氏の穀食地帯として重要な場所であったために、支配の要であった春山城は南北朝から使用され、川中島の戦いにも重要な拠点であった。
- ⑤ 蓮台寺**
 天平九年(737)越智泰澄神融によって開山され、九品の阿彌陀如来坐像を本尊とする真言宗智山派の古刹である。信仰と学問の寺として、地元では「くぶつあん」の愛称で親しまれている。何度が火災に遭ったが仏像一体は焼失を逃れ、現在は国指定の重要文化財として本堂裏の収蔵庫に安置されている。毎年五月八日には、大般若会法要が行われ、屋台店が軒を並べ老若男女大勢の参拝者で賑わう。枝垂れ桜の大樹が数本あり、春には淡い薄紅色の花が爛漫と咲き、見る人の心を堪能させてくれる。開花期間中、夜にはライトアップも楽しめる。また、7月にはアジサイが参道に咲き、多くの花見客が訪れる。
- ⑥ 金城地蔵**
 戦国時代の落武者が蓮台寺境内で昼寝をしていた折、夢枕に立った地蔵のお告げで大金を掘り当て、その礼にこの地蔵菩薩を造立したという。また天正10年(1582)武田氏滅亡後、この埋蔵金を知る武将格の落武者が掘ったとも云う。この地蔵は常に小麦粉がかかけられ白いので、おしろい地蔵・だてこき地蔵とも呼ばれ、この粉を皮膚病・切り傷・おでき等につけてと治るといわれ、治癒した礼詣りには小麦粉がふりかけられます。
- ⑦ 甌岩**
 昔から根守の地には赤色で金色の砂がまざった「あかべと」または「きんべと」と呼ばれる良質な粘土があり、明治初期頃はそれを使った焼き物の瓦戸や、土甎の産地であった。ここ根守には甌と呼ぶ地があり、焼き物に適した粘土の出土地によく付いた地名で、その地に近い険しい尾根上にあるこの巨岩をその地名から「甌岩」と呼ばれている。この甌岩からは、善光寺平・北信五岳が一望迫真!絶景の大パノラマが体感できる。
- ⑧ 弾正岩**
 弾正岩は霜台城の見晴か、量10枚位は数かれる巨岩で保科弾正忠正の名をとって弾正岩と言われている。岩に立てば保科扇状地全域を始め、保科大笹道を眺望することができる。保科大笹道は江戸時代から明治時代まで中馬(馬糞ぎの人達の同業者組合)の道として庶民に利用された。現在の県道菅平線は明治10年に開設された新道である。
- ⑨ 霜台城跡**
 延徳年間(1489~1492年)に保科弾正忠正利によって築城されたと言われている。「霜台」とは「弾正忠」のことであり、保科氏から地名がついたと言われる。太郎山の西方支脈の標高800mほどの位置にある。本丸・二の丸・三の丸跡と思われるところは方形に近い段郭になっており、掘り切り・土居跡も残っている。石垣は大部分が崩れて原型をとどめていない。付近には城窪・弾正岩・敵見岩の小名が残っている。
- ⑩ 広徳寺**
 延徳元年(1489年)に保科正利が当寺を高下地籍に創立した。その後村上氏に攻められ、伽藍は全焼したが天文二年(1533)現在地に再建された。ここは保科氏の館跡で、現在の本堂は天明5年(1785年)に再建されたものである。本堂の庭に保科正利の顕徳碑がある。京都南禅寺の開祖大明国師は保科氏の出身で若穂保科が生誕の地。総門前に国師の碑(写真)があり、毎年南禅寺や地元の顕彰会により法要が営まれている。
- ⑪ 清水寺**
 天平14年(742)行基菩薩が千手観音等を刻まれ安置したのが始まり。延暦二年(801)坂上田村麿が直刀などを寄進し、大同元年(806)京都清水寺の号を賜り建立。將軍奉納の前立鉄錫形(重文)、両界曼陀羅図(重文)を所蔵するほか、千手観世音像等二十余体の霊像(内七体は重文)が安置されている。古くから牡丹のお寺として親しまれ、また紅葉の名所としても知られており、毎年多くの観光客が訪れている。
- ⑫ 保科温泉**
 昭和34年8月に開湯し、秘湯として親しまれている。湧出量毎分1000ℓ、泉質は塩化物・硫酸塩温泉の湯量豊富な掛け流し温泉で、良く温まる温泉である。また敷地内にある170本の桜は見事で、毎年花見客で賑わっている。
 (営業時間) 10:00~21:00
 (定休日) 毎月第1・第3木曜日(祝日の場合は翌日)、12月31日、1月1日
 (料 金) 大人400円・小学生200円



